

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	201	事業名	環境改善舗装
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	まちづくり・環境		環境保護
個別計画			
所管	土木部	道路課	
目的	治水対策や騒音対策、雨天時における走行性の向上及びヒートアイランド現象の緩和など、地球温暖化対策の一環として沿道環境の改善を図ります。		
手段	透水性舗装、排水性（低騒音）舗装、遮熱性舗装、保水性舗装等の環境改善舗装を施工します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
透水性・排水性舗装 施工面積	㎡	13,158	6,000	8,800	147%	6,000			6,000

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	128,746	66,000	81,583	66,000		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	128,746	66,000	81,583	66,000		
所要人員 B	2.70	2.70	2.70	2.70		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	18,544	18,398	18,268	18,749		
総経費 E=A+D	147,290	84,398	99,851	84,749		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	【平成25年度施工実績】 ・透水性舗装：10,437㎡ ・排水性舗装：2,721㎡ 【平成25年度末施工実績】 ・透水性舗装：約323,700㎡ ・排水性舗装：約59,500㎡ ・遮熱性舗装：約8,100㎡ ・保水性舗装：約600㎡	【成果】	【平成26年度施工実績】 ・透水性舗装：8,170㎡ ・排水性舗装：630㎡
【課題】	透水性舗装は、治水対策に効果的ですが、雨水を直接地中へ浸透させるため、地下水位が高い低地等には適しません。低地及びその周辺部の道路改修工事の際には、地下水位を把握し、透水性舗装の適用有無を慎重に検討する必要があります。	【課題】	透水性舗装は雨水を直接地中に浸透させるため、治水対策としては排水性舗装より効果的です。引き続き、透水性舗装の適用拡大を検討します。
指標達成度		26年度	27年度
		A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	「環境改善舗装の推進によるヒートアイランド対策を検討してほしい（区民団体）」

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	現状維持	道路アセットマネジメント基本計画に基づき、効果的な整備を行います。
27年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳 増減なし
28年6月末		③ 所要人員の考え方 計画（2人×15%）+設計（4人×25%）+工事（4人×35%）=2.7人
		④ 現状維持の理由 道路アセットマネジメント基本計画に基づき、計画的に整備を行います。

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	202	事業名	みどりのふれあい事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	まちづくり・環境		環境保護
個別計画			
所管	土木部	みどり公園課	
目的	屋上緑化・生垣造成等で緑化推進によるヒートアイランド対策等を図るとともに、区民が緑と触れ合う機会を拡大します。		
手段	屋上緑化や生垣造成等を行う住民に、その経費の一部を助成します。また、イベント等を通じて緑化啓発を推進します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
屋上緑化助成	件	0	2	0	0%	2			2
生垣造成助成(新設)	m	8	40	22	55%	40			40
生垣造成助成(ブロック撤去)	m	0	20	0	0%	20			20
スタンプラリー	回	1	1	1	100%	1			1
自然散策会	回	2	2	2	100%	2			2
園芸教室	回	2	2	2	100%	2			2

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	782	2,262	870	2,206		
特定財源	160	834	263	834		
一般財源	622	1,428	607	1,372		
所要人員 B	1.20	1.20	1.10	1.10		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	8,242	8,177	7,443	7,638		
総経費 E=A+D	9,024	10,439	8,313	9,844		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	生垣造成8mに助成を行い、屋上緑化の助成はありませんでした。スタンプラリー、自然散策会、園芸教室といった啓発事業は計5回開催し、アンケート調査の結果、高い満足度を得ています。特に、園芸教室は内容を変更し、参加組数が前年度と比べ24組多い44組が参加しました。	【成果】	生垣造成22mに助成を行い、屋上緑化の助成はありませんでした。スタンプラリー、自然散策会、園芸教室といった啓発事業は計5回開催し、アンケート調査の結果、昨年を引き続き高い満足度を得ることができました。
【課題】	屋上緑化助成、生垣造成助成ともに利用率が低いため、緑化制度の検討を行っていく必要があります。	【課題】	緑化計画相談時に制度案内をしたり、千石公園の開園式でパネルで紹介し啓発事業を強化した。生垣造成助成は利用件数を伸ばすことができませんでしたが、屋上緑化助成は、相談はあったが助成には至らなかった。今後パネル等啓発を拡大強化することが必要です。
指標達成度		26年度	27年度
		B	B
		28年度	【課題】

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	「倍率が高いため、また、季節ごとに楽しめるよう、イベントの回数を増やしてほしい。(啓発事業アンケート)」
②	スタンプラリーの事業運営に、区民や学生ボランティアが参加しています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	現状維持	緑化推進のため、緑化助成制度の周知方法の改善により、達成率の向上を目指します。
		② 当初予算の増減内訳 入園料追加による使用料及び賃借料皆増 2千円 業務内容変更による報償費の減 14千円 事業廃止による需用費皆減 44千円
27年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 緑化助成事業+緑化啓発事業 2人×40%+1人×30%=1.1人
		④ 現状維持の理由 継続的に都市緑化を推進する必要があります。
28年6月末		

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	203	事業名	次世代自動車充電インフラの整備
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	まちづくり・環境		環境保護
個別計画			
所 管	資源環境部	環境政策課	
目的	国の次世代自動車戦略、東京都の次世代自動車充電インフラ整備促進に係るビジョン等を踏まえ、区内に電気自動車・プラグインハイブリッド車（以下、「EV・PHV」という。）に必要な急速充電設備を整備し、EV・PHVの普及を促進するとともに、低炭素社会の実現を図ります。		
手段	区有地（文京区春日一丁目1番24号）に急速充電設備を整備し、広くPRを図り、電気自動車の普及を促します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
利用台数	台	—	24	23		240			480

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A		12,283	11,982	1,367		
特定財源		6,067	4,040	539		
一般財源		6,216	7,942	828		
所要人員 B		0.20	0.20	0.20		
職員1人給与 C		6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C		1,363	1,353	1,389		
総経費 E=A+D		13,646	13,335	2,756		

4 評価					
事業の成果及び課題					
26年度		27年度		28年度	
【成果】		【成果】	一般社団法人 次世代自動車振興センターからの補助金と【PHV・PHEV・EV】充電インフラ普及プロジェクトの支援金を得て、平成27年2月に完成、平成27年3月20日から運用を開始しました。 当初、平成26年10月から運用開始の予定でしたが、入札が1度不調になり、完成が大幅に遅れました。指標としている利用台数見込みについては、10月～3月の6か月間での見込み数でしたが、3月の12日間のみでの利用台数になります。 また、4月からは区内2カ所目の急速充電設備が開口のホテル内に設置されています。	【成果】	
【課題】		【課題】	電気自動車等、次世代自動車の普及のためには、充電インフラの一層の充実や、高速道路料金の割引き制度の拡充が期待されます。	【課題】	
指標達成度		26年度	27年度	28年度	
			C		

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	現状維持	昨年度中に設置し、3月より運用開始しています。
		② 当初予算の増減内訳
		昨年度は設置工事費用 今年度は、充電スタンド稼働に伴う電気契約基本料金、通信費用等
		③ 所要人員の考え方
		(2/78) × 7.5 = 0.19
		④ 現状維持の理由
28年6月末		拡充・縮小の予定はありません。

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	204	事業名	温室効果ガス排出抑制に向けた取組の推進
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	まちづくり・環境		普及啓発・環境教育
個別計画	文京区地球温暖化対策地域推進計画		
所管	資源環境部	環境政策課	
目的	区が率先して二酸化炭素排出量の削減に努めるとともに、区民・団体及び区内事業者と一体となって地球温暖化対策を推進し、低炭素社会の実現を目指します。		
手段	文京区の地域における二酸化炭素排出量削減に係る取組を、文京区地球温暖化対策地域推進計画（以下「計画」という。）に基づいて行います。また、文京区役所地球温暖化対策実行計画に基づき、区の事務事業において率先した二酸化炭素排出量削減に向けた取組を行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
啓発事業の参加者数	人	2,609	3,000	3,079	103%	3,000			3,000

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	1,127	10,317	9,607	6,132		
特定財源	340	0	340	340		
一般財源	787	10,317	9,267	5,792		
所要人員 B	1.00	1.00	1.00	1.00		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	6,868	6,814	6,766	6,944		
総経費 E=A+D	7,995	17,131	16,373	13,076		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度	27年度	28年度	
【成果】 計画のアクションプランに基づく取組みにより、区民・団体・事業者の環境保全に対する意識の向上につなげることができました(台風の影響等により屋外でのイベントが中止になったため、啓発事業の参加者数は減少しました。)。	【成果】 計画のアクションプランに基づいた啓発事業に取り組み、イベント等の参加者数も増加しました。また、さらなる取り組みを推進するため、二酸化炭素排出量の削減目標及びアクションプランを見直す等計画改定を行いました。なお、コラム集を作成し、日常に取り組みやすいアクションプランを分かりやすく提案する等の工夫をしました。	【成果】	
【課題】 26年度の計画改定に当たり、二酸化炭素排出量の削減目標やアクションプランが、区民、事業者等にとって分かりやすく、継続できる内容に見直す必要があります。	【課題】 新たに追加したアクションプランの実行等、区民・団体・事業者・区が一体となって、より一層総合的・計画的に様々な対策に取り組む必要があります。また、地球温暖化緩和策だけでなく、適応策についての情報提供や、具体的な取り組みも今後必要となります。	【課題】	
指標達成度	26年度	27年度	28年度
	C	A	

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①地球温暖化対策に関する情報提供や、環境教育の推進を行政に期待しています。(アンケート)
②啓発事業は、NPO法人等と協働により実施しています。また、公募区民委員を含む文京区地球温暖化対策地域推進協議会を設置し、推進体制を構築しています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
26年6月末	拡充	① 事業の展開内容 改定した計画に基づき、アクションプランの進捗状況や二酸化炭素排出量の状況等を把握・評価した上で、必要な見直し・改善を提案するとともに、区民や事業者等に向けてアクションプランの一層の浸透を図っていきます。
27年6月末	拡充	② 当初予算の増減内訳 【計画改定業務終了による減】 報償費の減(198千円)、普通旅費の増(2千円)、一般需用費の減(18千円)、食料費の減(2千円)、印刷製本費の減(173千円)、一般役務費の減(133千円)、一般委託費の減(4,093千円)
28年6月末		③ 所要人員の考え方 0.5×2人=1.0人
		④ 現状維持の理由

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	205	事業名	文京ecoカレッジ
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	まちづくり・環境		環境保護
個別計画	文京区地球温暖化対策地域推進計画、モノ・プラン文京		
所管	資源環境部	環境政策課、リサイクル清掃課	
目的	環境に配慮した持続可能な社会を区民と築くため、低炭素社会、循環型社会等に係る講座を体系的に実施し、人材の育成とともに区との協働及びネットワーク化を推進します。		
手段	低炭素社会、循環型社会等に係る講座や事業を実施します。また、環境ライブ講座（旧 環境学習リーダー育成講座）や3R基礎講座の修了者にサポーターとして活動してもらうことで、地域での普及啓発を推進します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
文京ecoカレッジ（低炭素社会）	回	12	12	12	100%	12			12
文京ecoカレッジ（循環型社会）	回	16	23	20	87%	23			23

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	2,193	2,529	2,366	2,856		
特定財源	1,267	1,314	1,293	1,364		
一般財源	960	1,215	1,073	1,492		
所要人員 B	2.20	2.20	2.20	2.20		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	15,110	14,991	14,885	15,277		
総経費 E=A+D	17,303	17,520	17,251	18,133		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	低炭素社会の講座実績は12回で、内訳は親子環境教室4回、環境学習リーダー育成講座8回。 循環型社会の講座実績は16回で、内訳は、3R基礎講座1期、生ごみ減量塾2コース、エコ・クッキング教室3回、バス見学会1回、公開講座1回、モノ・フォーラム1回、エコ先生の特別授業7回、リサイクル推進サポーターの新規登録者は13人で昨年度より8人増となりました。カップルを対象としたエコ・クッキング教室を実施し、男性にもごみ減量に取り組むきっかけを作りました。	【成果】	低炭素社会の講座実績は12回で、内訳は親子環境教室4回、環境ライブ講座（旧「環境学習リーダー育成講座」）8回。来年度からの「環境ライブサポーター」制度に向けて案内をしました。 循環型社会の講座実績は20回で、内訳はリサイクル推進サポーター養成講座1期、生ごみ減量塾2コース、エコ・クッキング3回、バス見学会1回、公開講座1回、モノ・フォーラム1回、エコ先生の特別授業11回。 リサイクル推進サポーター養成講座の修了者のうち7名がサポーターとして登録し、登録者が39名となりました。 エコ先生の特別授業は新規団体の申請もあり、少しずつ利用団体が増えてきました。
【課題】	環境学習リーダー育成講座は、修了後の活動場所の提供について、環境活動団体等と協働して支援体制を構築していく必要があります。3R基礎講座は、参加者の年齢層が広がってきていますが、もっと気軽に参加できるようにテーマや講義内容を工夫していく必要があります。 講座によってはリピーターが多く、新規参加者を増やすことが課題です。	【課題】	26年度の課題であった環境ライブ講座修了後の活動場所の提供については、「環境ライブサポーター」制度（希望者は環境イベント等に参加する）で活動が始まりますが、参加希望日（曜日）が個々異なると思われます。 リサイクル推進サポーター養成講座は26年度で6期目となり、サポーター登録者も増えましたが、今後、活動を充実させるための方策が必要です。 また、講座の参加者がやや固定化しているため、幅広い年齢層の関心を引くようなテーマを取り上げ啓発につなげることが課題です。
指標達成度		26年度	27年度
			B

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①環境ライブ講座の開催を土曜日以外にしてほしい。・環境イベントの平日参加は難しい。・1回のみの参加枠（見学）があると良い。（環境ライブ講座受講生）/工場見学はあまりできないので良い機会になる。小型家電の処理やペットボトル等の再生工場を見学したい（バス見学会参加者）	
②区内で活動している団体と協働し、講座等の事業を開催しています。また、環境イベント等にブース出展しています。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	拡充	リサイクル推進サポーターの活動や区民への3Rの啓発につながるよう事業を実施していきます。
27年6月末	現状維持	② 当初予算の増減内訳 【環境717/親子環境】委託料の増56千、電気測定器購入による一般需用費の増170千円、サポーター制度活動費・保険料の増72千円、増税による各種費用の増6千円【リサイクル】講座委託費（エコ・クッキング、サポーター養成講座）の減△22千円、バス借上げ経費の増57千円、サポーター活動費の減△22千円、事務経費の増10千円
28年6月末		③ 所要人員の考え方 正規職員3人×0.5人＋正規職員1人×0.4人＋正規職員1人×0.3人=2.2 ④ 現状維持の理由 各事業の実施にあたっては、毎回テーマや内容の工夫を図り、普及啓発を進めます。

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	206	事業名	ごみ減量と3Rによる循環型社会の形成に向けた取組の推進
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	まちづくり・環境		環境保護
個別計画	モノ・プラン文京		
所 管	資源環境部	リサイクル清掃課	
目的	平成22年度に策定した一般廃棄物処理基本計画である「モノ・プラン文京」について、計画策定以降の法制度の改正や社会情勢等の変化に対応するため、中間年度に計画の見直しを行います。 「モノ・プラン文京」に基づき、3Rの推進、発生するごみ量の抑制について、区民の意識の向上を図り、その啓発を広く効果的に実施します。		
手段	リサイクル清掃審議会において「モノ・プラン文京」の中間年度における見直しについて検討します。 ごみや資源の分別方法を周知するパンフレットや3R推進啓発誌等を定期的に発行します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
「ごみと資源の分け方出し方」の発行	回	1	1	1	100%	1			1
3R啓発誌「ごみダイエツト通信」の発行	回	4	4	4	100%	4			4
リサイクル清掃審議会の開催回数	回	1	5	5	100%	5			4

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	1,585	12,397	11,767	6,725		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	1,585	12,397	11,767	6,725		
所要人員 B	1.10	1.10	1.10	1.10		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	7,555	7,495	7,443	7,638		
総経費 E=A+D	9,140	19,892	19,210	14,363		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	第1回リサイクル清掃審議会（第5期）を開催し、モノ・プラン文京の見直しについて諮問しました。 3R推進啓発誌は年4回発行し、新規の資源回収事業やイベントのお知らせなど、区民にとって身近な情報の提供や周知啓発を行いました。 「ごみと資源の分け方出し方」は保存版や4ヶ国版を発行しました。	【成果】	リサイクル清掃審議会を5回開催し、モノ・プラン文京の見直しの方向性について検討を行いました。 また、見直しの基礎データとするための排出実態調査を実施しました。 3R啓発紙「ごみダイエツト通信」を、年4回発行し、3Rの啓発を行いました。 「ごみと資源の分け方・出し方」の保存版冊子や4ヶ国語版を発行し、主に転入者に配布しました。また、簡易版を作成し、新聞折込で全戸配布しました。
【課題】	3R啓発誌は主に町会を通じて配布していますが、町会未加入世帯もあるため、より多くの区民に読んでもらうための方策を検討する必要があります。 分別方法のパンフレットも転入時や希望者への配布となっているため、定期的な全戸への啓発が必要です。	【課題】	3Rの周知啓発や情報提供の手段となる「ごみダイエツト通信」を区民に有効活用してもらうためには、配布形態や方法を検討する必要があります。
指標達成度		26年度	27年度
		A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①イラスト付きの分別の表はわかりやすい。1～2年に1回配布してほしい。 リサイクルのしくみ（回収されたものの再活用）がわからないので、ホームページや区報で簡単に図解で見られるとよい。（区民アンケート）	
②リサイクル審議会では5名の公募委員に委嘱している。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	拡充	中間のまとめ（素案）についてパブリックコメントや、住民説明会を実施し、広く区民の意見を取り入れ、計画策定を行います。 また、パンフレットや啓発誌を活用して正しい分別方法等を周知していきます。
27年6月末	現状維持	② 当初予算の増減内訳 モノ・プラン文京改定支援業務委託等の減△4,212 リサイクル清掃審議会経費の減△187 ごみと資源の分け方・出し方簡易版印刷経費等の減△1,273
28年6月末		③ 所要人員の考え方 1人×0.8+3人×0.1=1.1 ④ 現状維持の理由 27年度に実施した「ごみと資源の分け方・出し方」簡易版の新聞折込は3年毎を予定。審議会は中間年度見直しで27年度末で終了する。

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	207	事業名	新エネルギー・省エネルギー機器導入の促進
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	まちづくり・環境		環境保護
個別計画	文京区地球温暖化対策地域推進計画		
所管	資源環境部	環境政策課	
目的	新エネルギーや省エネルギー機器の導入を促進することにより、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの発生を抑制します。		
手段	新エネルギー機器（太陽光発電システム等）及び省エネルギー機器を設置する区民、中小企業者にその経費の一部を助成します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
太陽光発電システム設置費助成	件	27	40	24	60%	40			40
環境配慮型給湯器設置費助成（エコキュート等）	件	17	23	8	35%	23			23
家庭用燃料電池設置費助成（エネファーム）	件	38	60	34	57%	60			60

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	17,159	26,703	14,979	25,105		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	17,159	26,703	14,979	25,105		
所要人員 B	1.50	1.50	1.50	1.50		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	10,302	10,221	10,149	10,416		
総経費 E=A+D	27,461	36,924	25,128	35,521		

4 評価				
事業の成果及び課題				
26年度	27年度	28年度		
【成果】 新・省エネルギー機器に関する関心が高まり、新たに助成を開始した家庭用燃料電池（エネファーム）においては、募集件数を上回る申請がありました。	【成果】 太陽光発電システムおよび家庭用燃料電池においては昨年度と同程度の申請があり、計画に対し約6割の達成率となりましたが、環境配慮型給湯器については4割以下の達成率となってしまいました。なお、これらの結果を受け、27年度から新たに家庭用蓄電システムの助成を開始するとともに、その他の助成についても規模の見直しなどを行っています。	【成果】		
【課題】 助成対象者、助成対象機器の種類、助成金額及び募集件数について、区民からの要望、機器の性能や省エネルギー効果等を踏まえ、検討する必要があります。	【課題】 最新の新・省エネルギー機器の動向を踏まえ、助成対象機器の種類、助成対象者、助成金額及び募集件数を検討する必要があります。	【課題】		
指標達成度		26年度	27年度	28年度
		B	C	

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①助成対象機器にR32冷媒を使用している給湯器や窓の断熱材を入れてほしい。

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
26年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 助成実績や区民からの要望等を踏まえ、助成対象機器、助成金額及び募集件数等の助成内容を検討していきます。
		② 当初予算の増減内訳 太陽光発電・環境配慮型給湯器・家庭用燃料電池（エネファーム）助成の減△4,600千円 家庭用蓄電システム助成（新設）の増 3,000千円
27年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 0.5×3=1.5人
		④ 現状維持の理由 助成実績や区民からの要望等を踏まえ、助成内容を決定しているため
28年6月末		

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	208	事業名	街路灯LED化事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		まちづくり・環境
	【中項目】		環境保護
個別計画		【小項目】	
所管		土木部	道路課
目的	街路灯のLED化により温室効果ガス排出量及び電気料金を削減するとともに、不点灯の少ない安全な道路環境を整備します。		
手段	区内街路灯（装飾灯等を除く）6,088基のうち、省エネ化されていない小型～中型街路灯約2,600基を9年間でLED器具に取り替えます。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
街路灯改修	基	267	360	408	113%	350			350

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	36,857	61,571	38,264	63,461		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	36,857	61,571	38,264	63,461		
所要人員 B	0.60	0.60	0.60	0.60		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	4,121	4,088	4,060	4,166		
総経費 E=A+D	40,978	65,659	42,324	67,627		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	【成果】 26年度は、既存の灯具並みの価格となった小型の灯具を中心に改修を行い、予定数量よりも多くの街路灯の改修ができました。 計408基の改修により、今後年間で約197,600kWhの電力と約445万円の電気料金(平成27年4月の料金による試算)が削減できます。		【成果】
【課題】	【課題】 LED街路灯は、既存の街路灯に比べ故障率が低く、ランプ交換も不要なため維持費の削減にも寄与していますが、今後老化に伴い故障率が上昇することも考慮し、適切に維持できるように努めていきます。		【課題】
指標達成度		26年度	27年度
			A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
26年6月末	拡充	① 事業の展開内容 設置年の古い器具を重点的に交換を行っていきます。2020年以降、水銀ランプの製造が禁止されるため、水銀灯のLED化の早期完了を目指します。
		② 当初予算の増減内訳 工事請負費の増 1,861千円
27年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 調査・設計・工事・維持=0.6人
		④ 現状維持の理由 LED街路灯の寿命を12～15年として、年間の予算と施工数を平準化するように改修計画を立てています。
28年6月末		

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	209	事業名	資源の集団回収支援
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	まちづくり・環境		環境保護
個別計画	文京区一般廃棄物処理基本計画		
所管	資源環境部	リサイクル清掃課	
目的	町会・自治会やPTA、マンションの管理組合等の住民団体が資源を自主的に回収する活動（集団回収）を促進することによって、より多くの資源を効率的に回収し、ごみの減量を図るとともに、ごみ減量及びリサイクルに対する区民意識の高揚を図ります。		
手段	区報や区ホームページ、ちらし等を活用して事業を周知し、より多くの団体の実施を促すとともに、既実践団体に対して、報奨金の支給や補助用具の貸与、優良団体への感謝状贈呈、施設見学会の実施等の支援を行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
集団回収による資源回収量	t	5,886	5,886	6,001	102%	5,886			5,886
実践団体数	団体	521	533	544	102%	543			553

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	37,486	40,286	36,208	38,856		
特定財源	118	200	88	160		
一般財源	37,368	40,086	36,120	38,696		
所要人員 B	0.50	0.50	0.50	0.50		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	3,434	3,407	3,383	3,472		
総経費 E=A+D	40,920	43,693	39,591	42,328		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	「ごみダイエツト通信」などを通じて集団回収の広報を行いました。回収量についてはリデュースの影響により減少してしまいましたが、実践団体数については増やすことができました。	【成果】	様々な媒体を使用し広報活動を行ったところ、回収量、実践団体数ともに増加し計画を上回る結果となりました。
【課題】	総資源回収量に占める集団回収量の割合について、集積所における古紙の回収量が大幅に増加したため前年度より低下しました。今後は古紙以外の品目を回収することを勧奨するとともに、古紙についても行政回収から集団回収にシフトするよう効果的な広報を行っていきます。	【課題】	回収品目の内訳を見ると古紙が増えている一方、その他の品目については前年比で減少しているため、引き続き周知をする必要があります。
指標達成度		26年度	27年度
		B	A
【課題】			

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①報奨金の額をあげてほしい（基本構想推進会議）	
②区民で組織された団体に対する事業です。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	現状維持	実践団体の増に向けた取組のほか、回収品目の増加についても引き続き働きかけていきます。
		② 当初予算の増減内訳
		回収予想量の減に伴う減
27年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方
		1人×0.5=0.5人
28年6月末		④ 現状維持の理由
		区民の自主的な取り組みを支援する事業であり、継続することが必要なため

平成27年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	210	事業名	資源回収事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	まちづくり・環境		環境保護
個別計画	文京区一般廃棄物処理基本計画		
所管	資源環境部	リサイクル清掃課	
目的	資源となりうるものをごみと分けて回収・資源化することで、資源の有効利用とごみの減量を推進します。		
手段	集積所で古紙・びん・缶・ペットボトルを、回収拠点で紙パック・乾電池・食品トレイ・プラスチック製ボトル・衣類・使用済みインクカートリッジを、店頭回収拠点でペットボトル・ペットボトルキャップを回収し、資源化します。あわせて、金属系粗大ごみを資源化します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	25年度	26年度			27年度			28年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
資源回収量	t	8,278	8,278	8,233	99%	8,278			8,278
区収集リサイクル率	%	25	26	25	96%	27			28
粗大ごみのうち資源化先に持込む率	%	17	20	22	110%	25			30

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	412,272	439,826	405,109	392,521		
特定財源	52,502	48,046	81,819	66,358		
一般財源	359,770	391,780	323,290	326,163		
所要人員 B	1.00	1.00	1.00	1.00		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	6,868	6,814	6,766	6,944		
総経費 E=A+D	419,140	446,640	411,875	399,465		

4 評価			
事業の成果及び課題			
26年度		27年度	
【成果】	古紙の回収量が大幅に増加し、全体の回収量を押し上げました。清掃事務所で行っている持ち去り対策が一定の効果をもたらしたためと考えられます。また、平成26年度に向けて契約方法の変更や新たな協定の締結により資源売却収入を増加させる取り組みを行いました。なお、事業の指標については、前実施計画による事務事業評価から一部変更しました。変更した内容は以下のとおりです。 回収拠点数⇒区収集リサイクル率 粗大ごみ資源化率⇒粗大ごみのうち資源化先に持込む率	【成果】	資源回収量については雑誌の回収量減少に伴い計画量に達しませんでした。一方、粗大ごみの資源化については契約形態の見直しによる搬入先の変更、搬入先との交渉による搬入品目の拡大により資源化率が向上しました。また、契約の見直し等により、大幅な歳入の削減と歳入の増大を達成しました。
【課題】	平成25年度は古紙の回収量増加により一定の成果が出ましたが、回収量については景気の動向やリデュースの進行状況により影響を受けるため、引き続き回収品目や回収量の増加に向けた取り組みが必要となっています。	【課題】	回収量については景気動向など社会情勢に追う部分が大いため、引き続き回収量の増加に向けた取り組みが必要となっている。また、資源回収収入については各資源の市況に大きく影響されるため年度によって大きく変わることが予想されます。
指標達成度		26年度	27年度
		B	B

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①資源の持ち去りについて警察としっかり連携して取り締ましてほしい。(区民の声)	
②資源回収にご協力いただいていることで区民参画が図られていると考えています。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
26年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 小型家電の回収方法の検討を行うほか、不燃ごみに含まれる資源の回収について検討する。
		② 当初予算の増減内訳 ペットボトル店頭回収(東京丸Ⅲ)の終了に伴う回収車雇上げの減(約2200万円) 契約方法の見直しによる資源化委託経費の減(約2250万円) 【歳入】契約方法の見直しによる資源回収収入金の増(約1800万円)
27年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 2人×0.5人=1.0人
		④ 現状維持の理由 現状の回収品目の回収量を増やす取り組みを行うことで一定の効果を得られると考えているためです。
28年6月末		

平成27年度 事務事業評価表【B様式】

1 事業の概要			
事業番号	211	事業名	事業系ごみ対策
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	まちづくり・環境		環境保護
個別計画	文京区一般廃棄物処理基本計画		
所管	資源環境部	リサイクル清掃課	
目的	法により事業者責任とされている事業系ごみについて、廃棄物の適正処理を事業用大規模・中規模建築物の所有者等に対して、ごみの減量やリサイクルの推進を進め、環境負荷の低減や循環型社会の形成を図るために実施します。		
手段	事業用大規模・中規模建築物の所有者に対し、ごみの減量及びリサイクルの推進を行うことの意義を周知し、排出の方法等について指導を行います。		

2 取組状況	
25年度	事業用大規模建築物への排出指導については継続しています。これに加え、平成24年度から事業用建築物への排出指導の対象を拡大し、事業用中規模建築物の所有者に対して廃棄物管理責任者の選任、廃棄物管理責任者講習会の実施、再利用計画書の提出することを定めました。平成25年度はその拡大した対象建築物に対する、立ち入り指導を開始し、ごみ減量、リサイクルの推進を行うことの意義の説明や排出状況の確認、適正排出するためのアドバイスなどを行いました。
26年度	事業用大規模建築物への排出指導については引き続き実施しています。事業用中規模建築物については立ち入り指導を開始してから2年目になり、再利用計画書提出済みの物件に関しては概ね立ち入り指導を実施できました。また、再利用計画書未提出の物件については直接訪問するなど提出の勧奨を行っています。また、事業用中規模建築物の再利用計画書について、平成27年度提出分より事業用大規模建築物と比較対象できるように様式を変更しました。
27年度	

3 コスト						
単位：千円	25年度	26年度		27年度		28年度
	実績	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算
事業費 A	40	65	39	2,121		
特定財源	0	0	0	0		
一般財源	40	65	39	2,121		
所要人員 B	2.60	2.60	2.60	2.60		
職員1人給与 C	6,868	6,814	6,766	6,944		
人件費 D=B×C	17,857	17,716	17,592	18,054		
総経費 E=A+D	17,897	17,781	17,631	20,175		

4 評価					
事業の成果及び課題					
26年度		27年度		28年度	
【成果】	事業用大規模建築物（対象293棟） ・再利用計画書の提出：291件 ・立ち入り指導：95件 ・廃棄物管理責任者講習会：2回実施、58名参加 事業用中規模建築物（対象363棟） ・再利用計画書の提出：282件 ・立ち入り指導：150件 ・廃棄物管理責任者講習会：2回実施、61名参加	【成果】	事業用大規模建築物（対象292棟） ・再利用計画書の提出：291件 ・立ち入り指導：96件 ・廃棄物管理責任者講習会：2回実施、54名参加 事業用中規模建築物（対象353棟） ・再利用計画書の提出：282件 ・立ち入り指導：110件 ・廃棄物管理責任者講習会：2回実施、49名参加	【成果】	
【課題】	特に中規模建築物に関して「事業者処理責任」があるという認識が乏しく、ごみ減量意欲の少ないものが見受けられます。また、大規模・中規模とも区の施設において区の収集に出している建築物が多く、区として率先した業者収集への切り替えを行う必要があります。	【課題】	中規模建築物に関して、再利用計画書未提出の物件に訪問するなど提出を勧奨しているが、様々な理由で提出いただけない物件があります。また、大規模・中規模を通じて廃棄物管理責任者の講習会受講率が増加していない現状があります。	【課題】	
達成度		26年度	27年度	28年度	
		A	A		

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①他の事業所が行っている先進的な取り組みについて教えてほしい。（立ち入り指導実施時） 質の良い収集運搬業者を紹介してほしい（電話等の問い合わせ時）	
②区民としての事業者に取り組んでいただく内容であるため、区民参画が図られていると考えます。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
26年6月末	拡充	廃棄物管理責任者講習会において、より理解を深めてもらうため、啓発用のDVD作成を予定しています。将来的にこの動画を利用してeラーニングを行うことも検討します。
		② 当初予算の増減内訳
		廃棄物管理責任者啓発用DVDの作成による増（2074千円）
		③ 所要人員の考え方
		1人×1.0+2人×0.8=2.6
		④ 現状維持の理由
28年6月末		